

令和5年度第3回加茂郡白川地域公共交通×デジタル連携協議会

次 第

日 時：令和6年3月8日（金）16：00～

場 所：白川町役場 第2会議室

1 先進地視察のご報告（十六総合研究所）

資料1

2 令和5年度加茂郡白川地域公共交通×デジタル連携協議会
の取組みについて（白川町）

資料2

3 意見交換

株式会社アイシン・チョイソコとよあけ 視察報告書

十六総合研究所

視察日程等

- 目的：地域公共交通の目指す姿「誰もがこの地域で気軽におでかけできる利用のしやすい公共交通」に向け、Web予約・配車システムや公共交通をまちづくりに生かす方策について検討するにあたり、チョイソコ（運営：株式会社アイシン）を視察する。
- 日程：2024年2月28日（水）
- 視察先：①株式会社アイシン（刈谷市）
②チョイソコとよあけ（豊明市）
- 視察メンバー：
白川町役場 企画課：鈴木さん、高木さん
大新東株式会社：佐藤さん
岐阜県 デジタル戦略推進課 市町村支援係：井上係長、宇野主任
十六総合研究所：中村、松井

チョイソコとは

以下の3点を重要なポイントとして運用している。

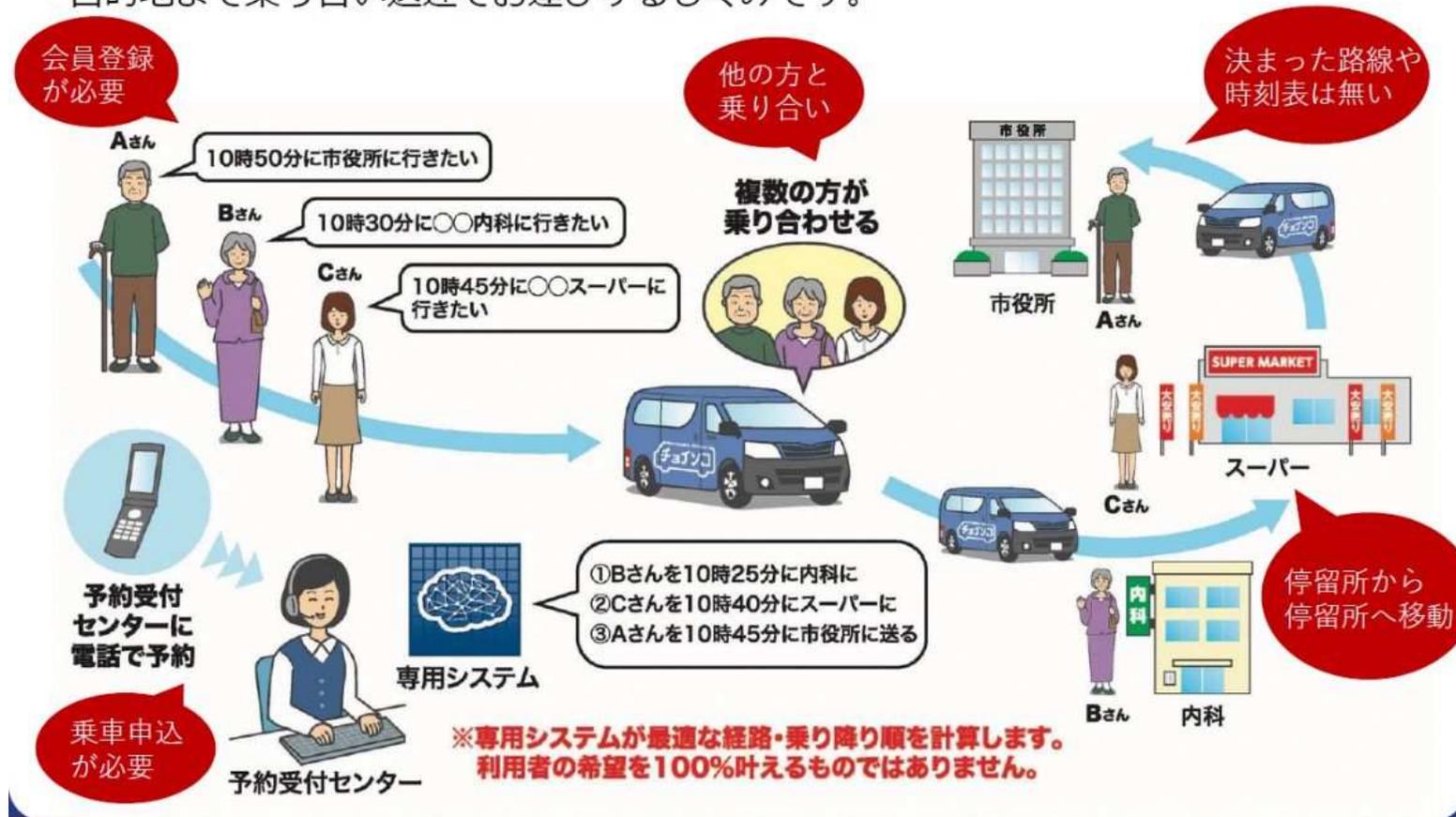
- ① 地域の交通不便を解消し、主に高齢者の外出促進に貢献するデマンド型交通
- ② 民間企業が事業主体となりエリアスポンサーによる協賛を得ることで採算性を向上
- ③ 高齢者の健康増進につながる外出促進の“コト”づくりを推進

利用方法

システムの性能・機能性（全体像）

高齢者に寄り添う運行システム

会員登録された利用者から乗車依頼を受付け、最適な乗り合わせと経路を計算
目的地まで乗り合い送迎でお運びするしくみです。



地域密着型の取り組み②

- より多くの方に利用いただくためには「周知」「理解」が必要で、住民説明会を数十回行うなど、満足度向上につなげている。

住民説明会の様子



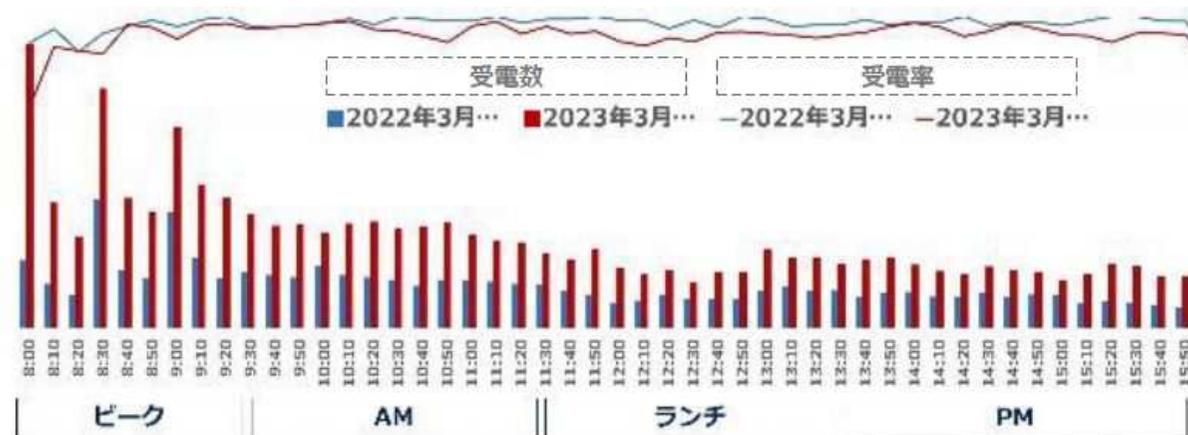
導入時に50回以上実施した地域もある

地域密着型の取り組み③

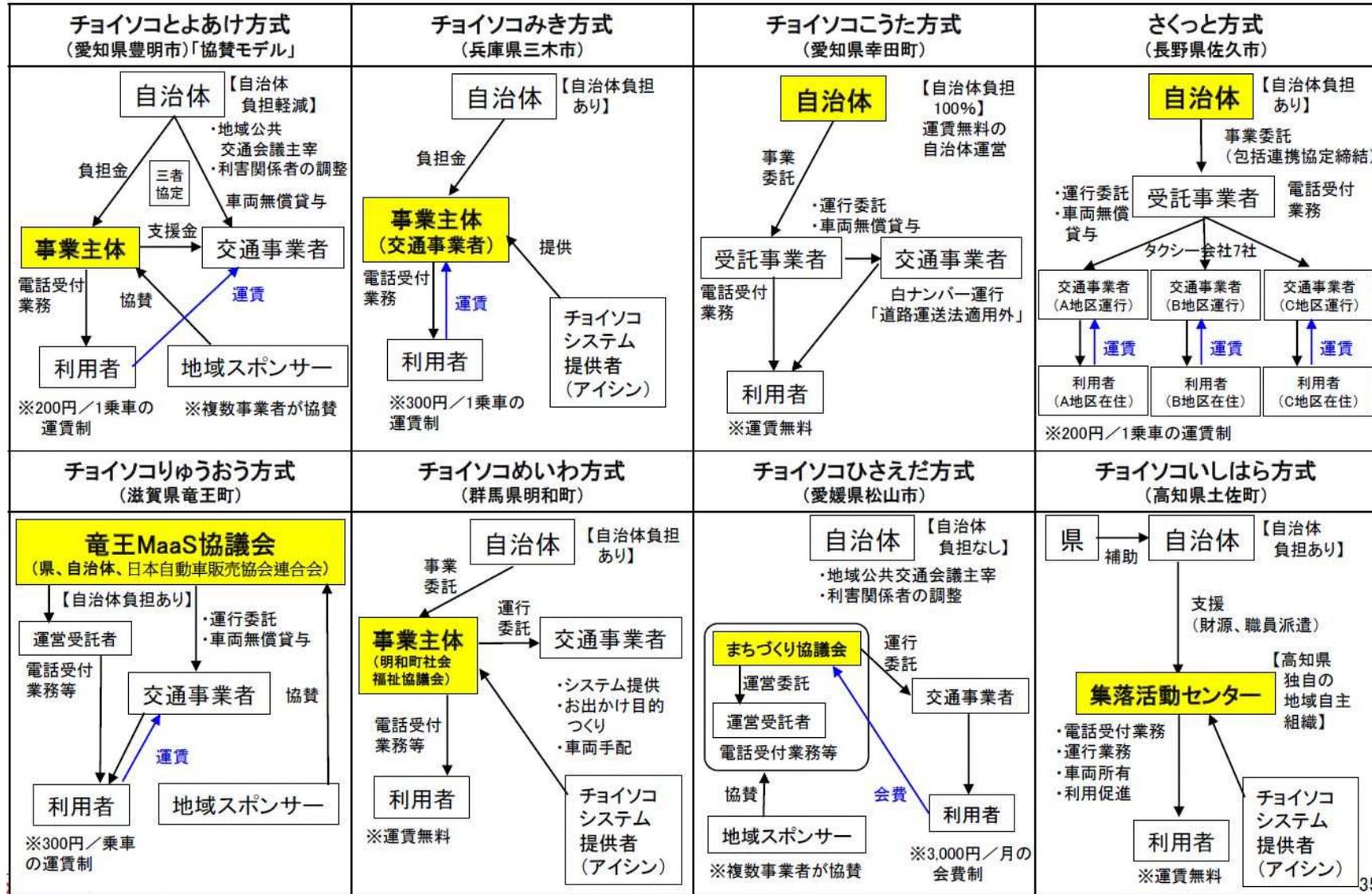
- 予約受付は約80%が電話受付。若い人はWeb予約。
- 各地域でのチョイソコの事業形態はさまざま。チョイソコのシステムのみを提供する地域もあれば、株式会社アイシンが事業主体となる地域など、地域の実情に合わせた運用としている。



← チョイソコのコールセンター
スクールバスを除くと
80%が電話予約



事業形態の事例①



事業形態の事例②

<p>チョイソコガーデン号方式 (神奈川県海老名市)</p> <p>【自治体 負担なし】 後方支援</p> <p>えびなお出かけ支援プロジェクト</p> <p>事業主体 (事業主体もスポンサー) → 交通事業者 (運行委託) → 利用者</p> <p>スポンサー → 事業主体 (協賛)</p> <p>チョイソコシステム提供 (アイシン) → 交通事業者 (電話受付業務等)</p> <p>※運賃無料</p>	<p>チョイソコかかみはがら方式 (岐阜県各務原市)</p> <p>【自治体 負担軽減】</p> <p>自治体 → 負担金 → 事業者</p> <p>三者協定</p> <p>事業主体 (アイシン) → 交通事業者 (支援金)</p> <p>地域公共交通会議主宰 ・利害関係者の調整 タクシー会社車両で運行は事業者輪番制</p> <p>利用者 → 地域スポンサー (協賛) → 交通事業者 (電話受付業務)</p> <p>交通事業者 → 地域スポンサー (協賛) → 利用者 (電話受付業務)</p> <p>※400円/1乗車の運賃制 ※複数事業者が協賛</p>	<p>チョイソコみようこう方式 (新潟県妙高市)</p> <p>【自治体負担あり】</p> <p>自治体 → 運行委託 → 受託事業者 (交通事業者2社)</p> <p>自治体 → 提供 → チョイソコシステム提供 (アイシン)</p> <p>受託事業者 → 利用者 (電話受付業務)</p> <p>利用者 → 受託事業者 (運賃)</p> <p>※300円/1乗車の運賃制</p>	<p>チョイソコおのくめ方式 (愛媛県松山市)</p> <p>【自治体 負担なし】</p> <p>※地域包括支援センターが設立 ・地域公共交通会議主宰 ・利害関係者の調整</p> <p>事業主体 (NPO法人) → 交通事業者 (運行委託) → 利用者</p> <p>事業主体 → 運営委託 → 運営受託者 (電話受付業務等)</p> <p>地域スポンサー → 協賛 → 運営受託者</p> <p>運営受託者 → 提供 → チョイソコシステム提供 (アイシン)</p> <p>会費 → 利用者</p> <p>※複数事業者が協賛 ※3,000円/月の会費制</p>
<p>南越前らくらくお出かけバス方式 (福井県南越前町)</p> <p>自家用有償旅客運送 (自治体運営)</p> <p>【自治体負担あり】</p> <p>自治体 → 事業委託 → 受託事業者</p> <p>自治体 → 運行委託・車両無償貸与 → 交通事業者</p> <p>受託事業者 → 提供 → チョイソコシステム提供 (アイシン)</p> <p>交通事業者 → 電話受付業務 → 利用者 (電話受付業務)</p> <p>利用者 → 交通事業者 (運賃)</p> <p>※100円/1乗車の運賃制</p>	<p>チョイソコひみ方式 (富山県水見市)</p> <p>県 → 補助金 → 自治体</p> <p>自治体 → サポート → 事業主体</p> <p>事業主体 → 提供 → チョイソコシステム提供 (アイシン)</p> <p>事業主体 → システム提供・利用促進 → NPO法人</p> <p>NPO法人 → 運行業務・車両所有 → 利用者</p> <p>利用者 → 電話受付業務等 → 事業主体</p> <p>利用者 → 運賃 → NPO法人</p> <p>自家用有償旅客運送 (NPO運営)</p>	<p>チョイソコふじの〜る方式 (札幌市南区)</p> <p>【自治体負担あり】</p> <p>自治体 → 支援事業委託 → 受託事業者</p> <p>自治体 → 負担金・運行補助・車両購入費 → 交通事業者 (バス会社)</p> <p>受託事業者 → 提供 → チョイソコシステム提供 (アイシン)</p> <p>交通事業者 → 電話受付業務 → 利用者 (電話受付業務)</p> <p>利用者 → 交通事業者 (運賃)</p>	<p>チョイソコ●●方式 (●●県●●市)</p> <p>今後も事業形態の事例が増えると予想</p>

コールセンター

- オペレーターは乗車位置と行先、時間を入力することで、4つの候補が表示され、利用者にご案内する。乗車位置や行先は、利用者ごとに履歴が残っており、またメモ書き（注意点等）も残せるため、コールセンターの誰が受電しても対応できるようになっている。
- エリアを分けてデマンドバスを運行している場合、乗り継ぎも含めてシステムが候補を出力する（最短で到着できるものや、乗り継ぎの待ち時間が少ないもの等）。



チョイソコとよあけ①

- 株式会社アイシンが事業主体として、自治体からは負担金、エリアスポンサーから協賛金を得て運用している。
- 車両はハイエース グランドキャビン（客席：8席）2台。
- 利用者は乗車時に料金を支払う（電子マネー利用可）。



チョイソコとよあけ②

- 豊明市ではエリアスポンサーから5,000円～10万円／月の協賛金を得ながら運用している。
- エリアスポンサーになると停留所を設置し、誘客手段の一つとして活用することができる。
- 豊明市役所 1Fには、エリアスポンサーを表示したボードが設置されており、市民等へのPR効果を狙っている。



令和5年度加茂郡白川地域 公共交通×デジタル連携協議会 の取組みについて

令和6年3月8日（金）

時間16：00～

白川町役場第2会議室

各委員からの意見に基づく地域課題の整理

(1) 公共交通の運営者側のニーズ

● 予約と運行記録の効率化

デジタル技術を活用した使いやすいシステムの導入

- ✓ 予約システムのデジタル化（シミュレーション）
- ✓ 病院予約との連携
- ✓ 運行記録のオートメーション化

● その他

- ✓ 運転手の確保・育成
- ✓ デジタルインフラの整備

地域情報化計画

各委員からの意見に基づく地域課題の整理

(2) 公共交通の利用者側のニーズ

● おでかけの“きっかけ”になる仕組みづくり

- ✓ 公共交通の移動が楽しくなる工夫

おでかけツアーの企画と開催

● 移動を便利に使いこなしたい

- ✓ 地区の移動ゾーンの見直し
- ✓ 運賃支払いを電子マネー化する
- ✓ 情報を身近に（駅、HP、若者）

蘇原地区のゾーンの見直し

デジタル技術を活用した使いやすいシステムの導入

ホームページSNSのリニューアル

令和6年度以降の取組み（プロジェクト）

1. デマンドバス予約システムの導入

- アプリやHPからの予約も可能にし、予約の効率化及び運行記録のオートメーション化

2. 診療予約とバス予約システムの連携

- 白川病院の診療予約にあわせ、移動手段を確保できる予約配車のデジタル化

3. 美濃白川ポイント通貨カード(仮称)の活用

- 「地域通貨実装事業」との連携や、運賃支払いの電子マネー化

4. おでかけの”きっかけづくり”の創出

- おでかけツアーの企画・開催や、SNSの活用等情報発信の多様化、地域の移動ゾーンの見直しなど“きっかけづくり”を創出

【参考】地域公共交通計画（素案）

白川町・東白川村地域公共交通計画について
（資料別紙）



【参考】第1回連携協議会の意見

<予約と運行記録の効率化>

- 通院による利用者が一番多い。近似する時間帯の利用者の割り振りが課題
- ネットで予約ができないのが問題。しかし100%ネット予約は運営上不可能
- 高齢者のバス予約の方法は、電話の声の安心感もあり配慮が必要。
- 耳の不自由な利用者にとっても電話だけの予約は不親切な状況だと思われる。
- スマホを持たない方への専用予約端末などはどうか。
- JR白川口駅にタブレット端末を置くだけで良いだろう。

<おでかけの“きっかけ”になる仕組みづくり>

- 若い人に対するアピールも必要だと思う。

【参考】第1回連携協議会の意見

＜移動を便利に使いこなしたい＞

- 地域外への移動エリアを拡大してほしいという声がある
- 利用者のエリア外への移動は、アプリの活用シーンがあるのでは
- Uberのような運転手募集やライドシェアができないか
- 運賃が現金（特に小銭）だけというのが面倒という声がある。
- 電子ポイントマネーの利用は、運賃支払いや配送サービスなど展開性があるのでは。
- J R 白川口駅の玄関口機能の強化を進めるべき。

【参考】第1.5回連携協議会の意見

＜予約と運行記録の効率化＞

- 高齢者への配慮

＜おでかけの“きっかけ”になる仕組みづくり＞

- 公共交通は利用者の交流機会としての側面もある（高齢者から子育て世代）
- 目的地側が公共交通側の都合に合わせている（グランドゴルフ）
- チャイルドシート着用が公共交通は免除。子供と一緒に子育てグループで気軽に公園やイベントに行くことができる。

＜移動を便利に使いこなしたい＞

- 運賃は現金（特に小銭）を使わないように
- 町内商店や目的地と連携のできるツールがあれば。
- 子育て世代の転出理由が高校以降の通学問題であれば、そこに支援が必要ではないか。
- 若年層への広報、利用促進活動が必要。公共交通が親の通院や買い物の送迎を代行してもらえることになる。

【参考】第2回連携協議会の意見

＜予約と運行記録の効率化＞

- ネット予約の配車管理状況を視察するなら見たい。
- 運転日報が手書きだが、デジタル導入で運転手の手間を省きながら運行記録をとるのはどうか。
- 白川病院との予約をもっと簡潔にすべきと考える。
- 病院予約と連携は簡単にできる。ただ、デジタル化したことでさらに車と運転手が必要になるなら意味がない。既存システムに現行予約状況を入力するシミュレーションが出来ればやりたい。
- 今生じている問題を一気にデジタルで解決できるのがベストだが、現に不可能なので困っている。ただ、利用者の利便性や事業者の負担軽減のできる方法を探していく。
- 高齢者に優しいデジタル化が重要。

【参考】第2回連携協議会の意見

<移動を便利に使いこなしたい>

- 住んでいる人、活躍している人が本当に使いたいかが重要。

<その他>

- 運転手の確保・育成が課題なのでは。
- デジタルを活用するにはインフラの整備も必要である。
- 課題の優先順位をつけるのが先。